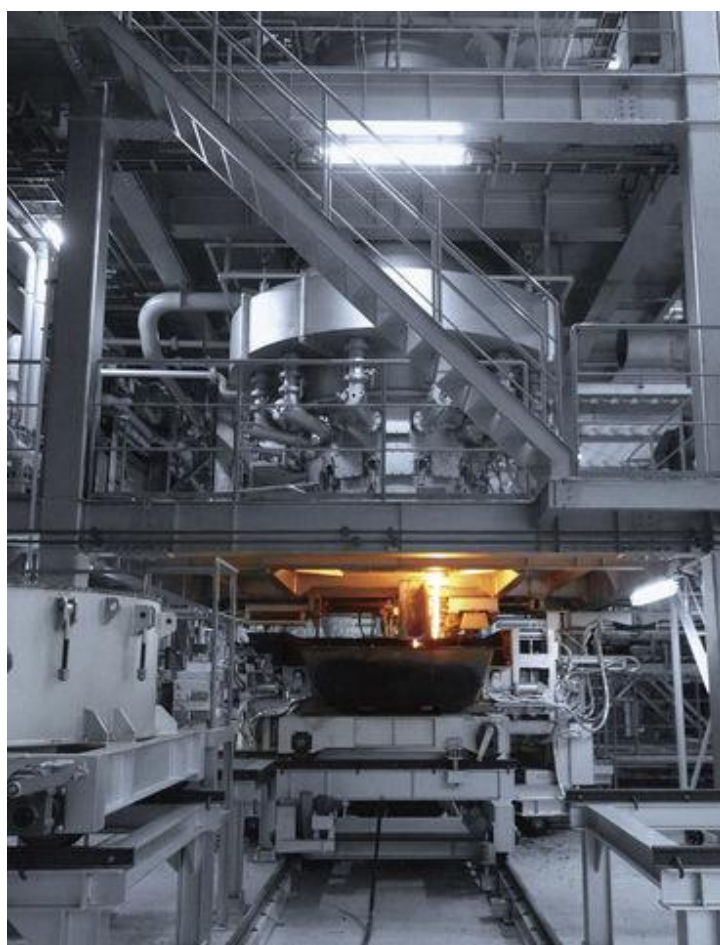


メルテックいわき株式会社 環境経営レポート

2024 年度

(対象期間 2024 年 4 月～2025 年 3 月)



作成日：2025 年 5 月 15 日

1. 組織の概要

1. 組織の概要

1) 名称及び代表者名

メルテックいわき株式会社

代表取締役常務 鈴木 智也

2) 所在地

本社・本社工場 〒979-0201 福島県いわき市四倉町字芳ノ沢1番75

URL : <https://www.dowa-eco.co.jp/MLTI/>

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

・環境管理責任者

工場長 石森 洋平

・担当者

品質管理課 緑川 尚将

・連絡先

TEL : 0246-84-9507 FAX : 0246-84-9508

E-Mail : midorikt@dowa.co.jp

4) 事業活動内容

産業廃棄物・一般廃棄物の処理業(処分)

5) 事業の規模

	2022年度	2023年度	2024年度
売上高(百万円)	2,066	2,458	2,714
処理能力(t/日)	158.5t/日	158.5t/日	158.5t/日
従業員数(人)	41	41	39
建築面積(m ²)	5,125.64	5,125.64	5,125.64
敷地面積(m ²)	21,900.08	21,900.08	21,900.08

6) 事業年度

4月～3月

7) 情報公表項目

(1) 法人設立年月日 : 平成 27 年 9 月 15 日

(2) 資本金 : 9,000万円

(3) 許可の内容

許可地区、許可番号、許可区分、廃棄物の種類、(許可年月日、許可の有効年月日)

許可地区	許可区分	許可番号
	廃棄物の種類	許可年月日 許可の有効年月日
		許可の有効年月日
いわき市	一般廃棄物処分業	第23503号
	ごみ(一般廃棄物であつて、ばいじん、燃え殻、汚泥、ガラス製であるもの、コンクリート製であるもの、陶磁器製であるもの及び金属製であるものに限り、粗大ごみを含む)	令和6年1月30日
		令和8年1月25日
いわき市	産業廃棄物処分業	第09420199403号
	燃え殻、汚泥、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴つて生じたものを除く。)及び陶磁器くず、がれき類、ばいじん 以上6種類 これらのうち特別管理産業廃棄物であるもの、自動車等破砕物、廃プリント配線板(鉛を含むはんだが使用されているものに限る。)、廃容器包装(固形状又は液状の物の容器又は包装であつて不要物であるものをいう。)、鉛蓄電池の電極であつて不要物であるもの、鉛製の管又は板であつて不要物であるもの、廃石膏ボード、石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を除き、廃ブラウン管(側面部に限る。))及び水銀含有ばいじん等(回収義務が生じるものを除く。)を含む。	令和5年1月26日
		令和10年1月25日
いわき市	特別管理産業廃棄物処分業	第09470199403号
	燃え殻、ばいじん、汚泥 以上3種類。これらのうち、特別管理産業廃棄物に係る有害物質の項目は以下の通りであり、水銀回収義務が生じるものを除く。 燃え殻 (カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物、セレン又はその化合物若しくはダイオキシン類を含むことのみにより有害なものに限る。)以上6項目 ばいじん (水銀又はその化合物、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物、セレン又はその化合物若しくはダイオキシン類を含むことのみにより有害なものに限る。)以上7項目 汚泥 (カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物若しくは砒素又はその化合物を含むことのみにより有害なものに限る。)以上4項目	令和5年1月26日
		令和10年1月25日

(4) 事業スキーム

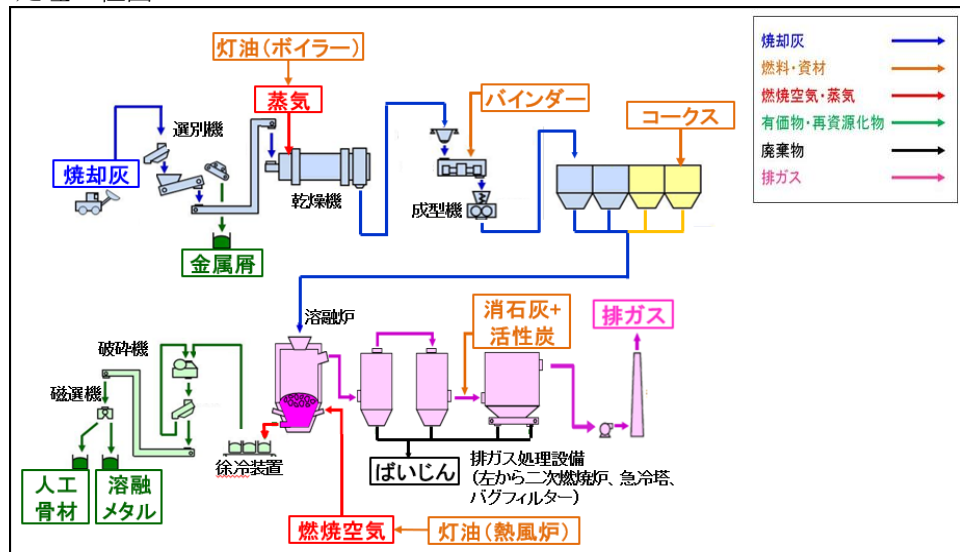


(5) 施設状況

処理施設の種類、処理する産業廃棄物の種類、処理能力(規模)、処理方式

処理施設の種類	溶融固化施設
処理する廃棄物の種類	一般廃棄物 (3) 許可の内容に記載の通り
	産業廃棄物 (3) 許可の内容に記載の通り
	特別管理産業廃棄物 (3) 許可の内容に記載の通り
処理能力	158.5t/日
処理方式	コークスベッド方式溶融炉

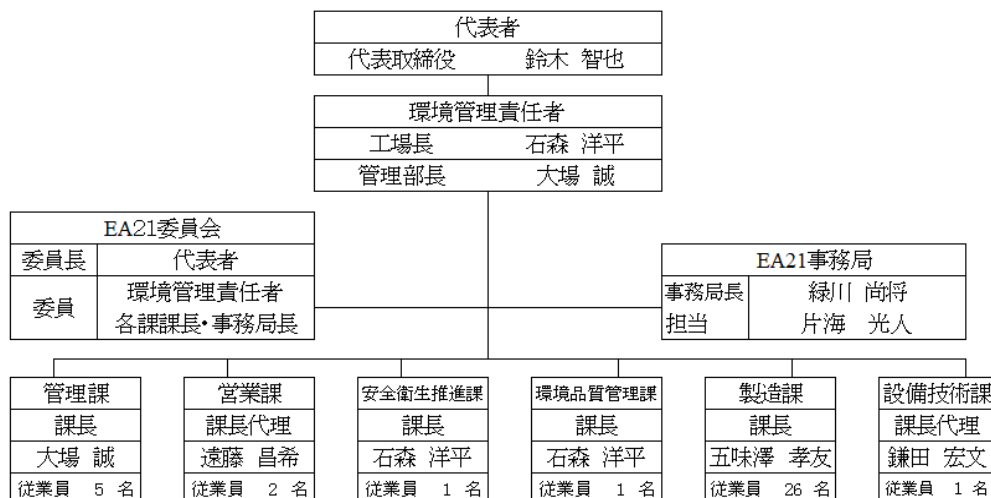
処理工程図



(6) 処理実績:環境への負荷の自己チェック、別表②受託した産業廃棄物の処理量

事業年度	種類	産業廃棄物処分量(t)	一般廃棄物処分量(t)
2022年度	燃え殻、ばいじん、金属くず	4,062	26,803
2023年度	燃え殻、ばいじん、金属くず	5,220	28,713
2024年度	燃え殻、ばいじん、金属くず	6,568	30,542

(7) 組織図



役割、責任及び権限表

対象者	役割、責任・権限
代表者	・経営における課題とチャンスの整理、明確化 ・環境経営に関する方針（環境経営方針）の決定、誓約 ・効果的で必要十分な実施体制の構築と役割、責任及び権限の決定 ・環境経営に必要な資源（人・もの・資金・情報）の用意 ・環境経営全体の取組状況の評価、総括的見直し、必要な指示
環境管理責任者	・環境経営目標、環境経営計画の作成・承認及び社内周知 ・全社組織へのEA21活動実施の統括 ・EA21活動結果全体のとりまとめ承認及び代表者への報告 ・内外環境コミュニケーションへの対応 ・問題点の是正処置の統括
EA21委員会	・環境経営方針等決定事項の社内伝達 ・EA21活動に関する協議、意見交換
EA21事務局	・環境管理責任者の補佐 ・EA21活動に関する事務
部門責任者	・環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画内容の部門内周知 ・部門内EA21活動の実施指揮及び部門内EA21活動結果のとりまとめ ・問題点の是正処置、予防処置の実施
従業員	・環境経営目標、環境経営計画等に基づくEA21活動の実施 ・EA21活動に関する提案

2. 対象範囲（認証・登録の範囲）、レポートの対象期間及び発行日

- 1) 対象範囲 ： 全組織・全活動
- 2) レポートの対象期間及び発行日：
レポートの対象期間及び発行日は表紙に記載

3. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

1. 基本理念

メルテックいわき株式会社は、焼却灰を原料とする人工骨材及び溶融金属の製造・再資源化事業を通じ、持続可能な循環型社会の構築に貢献します。

事業活動における環境の改善が企業の社会的責任であると深く認識し、環境に配慮した活動を推進します。

2. 活動方針

- 1) 環境目的、目標を定めて定期的に見直しを行うと共に、環境管理活動を継続的に推進します。
- 2) 環境関連法規制及び自ら同意した法的要求事項を順守し、環境汚染の予防に努めます。
- 3) 事業活動が環境に影響を与える中で、特に以下の項目について優先的に環境保全を推進する必要性を認識し、活動します。
 - 3)－1. 使用原単位改善による省エネルギー、省資源の推進
 - 3)－2. リサイクル率の向上、ダスト発生率低減
 - 3)－3. カーボンニュートラルを見据え、代替エネルギーの検討を推進
- 4) 地域と密着した社会環境整備・保全への貢献活動に努めます。
- 5) 当社で働く全従業員にこの環境方針を周知するとともに、環境に対する意識向上を図るため、適切な教育及び広報活動を行います。
- 6) この環境経営方針は外部からの求めに応じていつでも開示します。

2024年4月1日
メルテックいわき株式会社
代表取締役 鈴木智也

4. 環境経営目標

活動期間：2024年4月～2025年3月



2023年度まで原料投入量の目標値は処理対象物である焼却灰と副資材(購入品)である石灰石の投入量を合算した数値となっていた。副資材のコスト削減を2023年度より進め相対的に投入量が減少する形となった。しかし、副資材の投入量が減ったことに伴い焼却灰の投入量が増加したことで収益性の改善が進む形となった。

以上のことより副資材を抜いた焼却灰に対する原単位への目標値の変更の妥当性を確認した結果、目標値の変更は妥当であると考えられたため2024年度より目標値の見直しを行った。

環境経営目標								
環境経営目標項目				2021 年度 実績値	(中期)年度目標値			
環境重点 経営分野 方針	環境経営目標項目				2022 年度	2023 年度	2024 年度	
	原単位指標	原料 投入量	t					
1	(目標値設定率)			使用量 (排出量)	—	2022年度比 1 %削減	2023年度比 1 %削減	
二酸化炭素 排出量の削減	(1)電気使用量の削減 (排出係数:0.457*)		使用量	MWh	4,554	5,028	5,051	36,751
			原単位	kg-CO ₂ /t	57.9	60.9	60.3	64.8
	(2)化石燃料 使用量の削減	ガソリン (排出係数:2.32)	使用量	L	429	450	450	612
			原単位	kg-CO ₂ /t	0.0277	0.0277	0.0273	0.0387
		軽油 (排出係数:2.62)	使用量	L	75,847	79,523	79,523	78,386
			原単位	kg-CO ₂ /t	5.53	5.53	5.45	5.60
		灯油 (排出係数:2.49)	使用量	kL	2,435	1,777	1,533	1,401
			原単位	kg-CO ₂ /t	169	117	100	95
		再生油	使用量		—	364	724	919
		コークス (排出係数:3.17)	使用量	t	4,604	4,928	5,511	5,258
			原単位	kg-CO ₂ /t	406	414	456	453
	原単位CO2		kg-CO ₂ /t	580	541	561	554	
	原単位二酸化炭素排出量			kg-CO ₂ /t	602	602	622	619
2	(目標値設定率)			使用量 (排出量)	—	前年度比 1 %削減	前年度比 1 %削減	
廃棄物排出 量の削減	一般廃棄物 排出量削減		排出量	kg	3,834	3,846	4,041	3,791
			原単位	kg/t	0.107	0.107	0.106	0.103
	産業廃棄物 排出量削減		排出量	t	9,305	10,865	9,190	10,262
			原単位	kg/t	259	288	240	279
3	(目標値設定率)			使用量 (排出量)	—	前年度比 1 %削減	前年度比 1 %削減	
水使用量の削減	水使用量の削減		水使用量	m ³	33,271	37,962	38,292	40,401
			原単位	m ³ /t	0.93	1.01	1.00	1.10
4	(目標値設定率)			使用量 (排出量)	—	前年度比 1 %増	前年度比 1 %増	
自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善	中間処理 再資源化量の拡大 (人工骨材)		販売量	t	15,462	16,773	16,228	16,390
	中間処理 再資源化量の拡大 (溶融メタル)		販売量	t	465	465	279	282

*購入電力二酸化炭素排出係数：2021年度東北電力調整後排出係数を用いて算出

5. 環境経営計画及び環境経営目標の実績

活動期間：2024年4月～2025年3月

年間CO2総排出量 20,008t

〔2024年度〕 環 境 経 営 計 画										
			具体的取組内容	対象部署 (責任者)	原単位指標		目標値	実績値	月平均	
					項 目	単位				
1 ・ 二酸化炭素排出量の削減	(1)電気使用量の削減 (排出係数:0.457*)		溶融稼働率向上 フリーエアの低減 不要照明の消灯	製造 (五味澤)	使用量	実績値	MWh	－	4,975	415
						原単位	kg－CO2/t	64.8	59.9	60.4
						達成評価			○	
	(2)化石燃料使用量の削減	ガソリン (排出係数:2.32)	不必要なアイドリングはしない エコドライブの実行	管理 (大場)	使用量	実績値	L	－	607	51
						原単位	kg－CO2/t	0.0387	0.0374	0.0380
		軽油 (排出係数:2.62)	原料調合管理の安定化 不必要なアイドリングはしない	製造 (五味澤)	使用量	実績値	L	－	72,040	6,003
						原単位	kg－CO2/t	5.6	5.0	5.1
		灯油 (排出係数:2.49)	溶融安定化 制御の安定化(送風、二次燃バーナー)	製造 (五味澤)	使用量	実績値	kL	－	1,369	114
						原単位	kg－CO2/t	95	90	89
		再生油	再生油使用割合の拡大		使用量	実績値	kL	919	1,202	100
						原単位	kg－CO2/t	－	0	
		コークス・アノード パット (排出係数:3.17)	溶融稼働率向上 バンキング時間抑制 代替燃料使用	製造 (五味澤)	使用量	実績値	t	－	4,459	372
						原単位	kg－CO2/t	453	372	372
	化石燃料使用量原単位二酸化炭素排出量					実績値	kg－CO2/t	554	467	466
	〔kg－CO2/t原料投入量〕					達成評価			○	
	原単位二酸化炭素排出量					実績値	kg－CO2/t	619	527	527
	〔kg－CO2/t原料投入量〕					達成評価			○	
2. 廃棄物排出量の削減	一般廃棄物 排出量削減 〔排出量/原料投入量〕	分別徹底	管理 (大場)	排出量	実績値	kg	－	3,745	312	
					原単位	kg/t	0.103	0.115	0.122	
					達成評価			×		
	産業廃棄物 排出量削減 〔排出量/原料投入量〕	中間処理前の徹底分別 成型安定化	製造 (五味澤)	排出量	実績値	t	－	10,329	861	
					原単位	kg/t	279	272	276	
達成評価						○				
3. 水使用量の削減	水使用量の削減 〔使用量/原料投入量〕	制御の安定化(ガス冷却) 節水呼びかけ 年に2回漏水点検	製造 (五味澤)	使用量	実績値	m³	－	43,642	3,637	
					原単位	m³/t	1.10	1.15	1.15	
					達成評価			×		
4. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善	中間処理 再資源化量の拡大 (人工骨材)	こぼれスラグの回収 成型性向上による溶融量増加 (後工程へのショートパス低減)	製造 (五味澤)	販売量	実績値	t	16,390	18,470	1,539	
					達成評価			○		
	中間処理 再資源化量の拡大 (溶融金属)	回収ロスの把握、調査 磁選回収の徹底 自社廃棄物のリサイクル	製造 (五味澤)	販売量	実績値	t	282	453	37.7	
					達成評価			○		

*購入電力二酸化炭素排出係数：2021年度東北電力調整後排出係数を用いて算出

6. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

適切な原単位の目標設定を行い概ね目標達成することができた。

しかし、水使用量削減の項目に関しては設備保全や気象変動の影響まで考慮できておらず、目標を大きく下回る結果となってしまった。

次年度は、設備の稼働状況・気象状況も考慮し目標の見直しを行う。

環境目標項目			取組内容	取組み	
				結果・評価	次年度の内容
1. 二酸化炭素排出量の削減	(1)電気使用量の削減		溶融稼働率向上 フリーエアの低減 不要照明の消灯	目標達成。達成率117%。 目標達成。 昨年同様、操業が安定してきたことが大きな要因となり、コークス原単位の減少によるCO2排出量減の結果となった。	代替資材への転換は継続して取り組みつつ、操業安定化によりさらなる原単位低減に取り組む。
	(2)化石燃料使用量の削減	ガソリン	不必要なアイドリングはしない エコドライブの実行		
		軽油	原料調合管理の安定化 不必要なアイドリングはしない		
		灯油	溶融安定化 制御の安定化(送風、二次燃バーナー) 再生油使用割合の拡大		
		コークス	溶融稼働率向上 バンキング時間抑制 代替燃料使用		
2. 廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量削減		分別徹底	目標未達。達成率90%。 5S活動の活性化により数年滞留していた廃棄物が排出され一時的に増加。	5S活動の取り組みを進め適正排出量を継続できるようにする。
	産業廃棄物排出量削減		中間処理前の徹底分別 成型安定化	目標達成。達成率103%。 成形機の調整が功を奏し成形性向上。成形性向上に起因し廃棄物排出量削減。	原料性状に基づいた目標値を設定し、取組み継続。
3. 水使用量の削減	水使用量の削減		制御の安定化(ガス冷却) 節水呼びかけ 年に2回漏水点検	目標未達。達成率96%。 設備保護や季節要因による一時的な使用量増が影響。 次年度目標見直しを検討。	処理量増による原単位低減に取り組む。
4. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善	中間処理再資源化量の拡大 (人工骨材)		こぼれスラグの回収 成型性向上による溶融量増加 (後工程へのショートパス低減)	目標達成。達成率113%。 原料処理好調に起因しスラグ発生量増加。	産業廃棄物発生削減の促進と共に進める。
	中間処理再資源化量の拡大 (溶融メタル)		回収ロス把握、調査 磁選回収の徹底 自社廃棄物のリサイクル	目標達成。達成率161%。 原料処理好調に起因しメタル発生量増加。	顧客ニーズに合わせた目標値の再設定を行う。

7. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に係る環境関連法規等は下記の通りである。順守状況を 2025 年 4 月に確認した結果、違反はありませんでしたが、一般廃棄物処理施設の維持管理について厳重注意を 1 件受けた。

環境関連法規等順守状況

区分	環境関連法規等名称	順守
		結果
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) (産業廃棄物の適正処理)	○
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)続き (産業廃棄物の適正処理)	○
	放射性物質汚染対処法	○
省エネ	エネルギーの使用の合理化に関する法律 (省エネ法)	○
騒音・振動	騒音規制法	○
	振動規制法	○
水質汚濁	浄化槽法	○
大気汚染	大気汚染防止法	○
	福島県生活環境の保全に関する条例	○
	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	○
	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	○
資源循環 (リサイクル)	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	○
	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	○
	使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	○
消 防	消防法(危険物関連)	○
	いわき市火災予防条例	○
その他	計量法(トラックスケール)	○

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

代表者による全体の評価と見直し 結果報告書				代表者	環境管理責任者
				鈴木	石森
見直し実施日	2025年5月13日 (☒ 定期見直し ☐ 臨時見直し)				
見直し対象期間	2024年 4月 1日 ~ 2025年 3月 31日				
出席者	代表者、環境管理責任者、部門責任者				
前回の指示への取組結果	昨年度の見直しを考慮し、現状の状況に合わせた目標への見直しを行った。結果、未達の目標項目数が減少し、かつ、現状の問題点の見直しをすることができ、継続的改善が果たせている。				
見直しに必要な情報	①環境関連法規の遵守状況(環境関連法規等取りまとめ表兼遵守確認評価表による) ②環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果(環境経営計画兼実績書による)。 ③問題点の是正処置及び予防処置の結果(是正／予防処置報告書による) ④外部からの環境に関する苦情等の受付結果(外部コミュニケーション記録による) ⑤その他(法規制の動向や取引先からの「グリーン調達」の情報等)				
代表者による 評価 経営的観点	【環境経営システムが有効に機能しているか】(①、③、④、⑤等を踏まえて評価) ①は、評価表により遵守状況を確認 ③目標未達継続及び外部からの苦情等問題発生時には是正／予防処置を検討し報告書を発行 ④は、環境関連の外部からの調査や苦情の顛末を記録として残している等により、有効に機能していると判断する。				
	【環境への取組が適切に実施されているか】(②等を踏まえて評価)				
	目標項目	目標達成状況	活動計画実施状況	目標・活動計画実施状況の評価(達成の場合:目標設定方法及取組方法の問題点、次年度の方向性 未達の場合:原因の明確化、次年度の目標や対応策)	
	二酸化炭素排出量の削減	○	○	年間を通して原料処理が順調に行われたことに起因し、CO2排出量原単位は目標達成。次年度以降さらなる削減を目標に活動を継続する。	
	廃棄物排出量の削減	△	○	産業廃棄物排出量は6月実施の成形設備改善や成形条件の見直しにて是正発効後は排出量の大幅削減を達成できた。一般廃棄物は年間通して5S活動を活性化させ、一時的に増加したが社内美化・効率化活動内であり、活動計画実施状況は○とした。	
	水使用量の削減	×	△	水冷による設備保護の影響で年間を通じ未達が続く状況であった。12月のメンテナンスで設の修繕を実施し改善傾向である。次年度は年間の水使用量のトレンドをもとに目標の再設定を行い年間を通して目標達成を目指す。	
代表者による 見直し 変更の必要性の有無・変更に必要な具体的指示事項	自らが生産・販売・提供する製品の環境性能向上及びサービス改善				
	○	○	原料処理が順調に行われたことにより、骨材・メタル共に発生量増加。骨材の新規販売先も見つかり目標を達成。次年度よりメタルは顧客ニーズに合わせメタルの販売量ではなく貴金属である金の回収量に焦点を当て目標の再設定を行う。		
	【環境経営方針】 変更の必要性 : ☒ 有 ☐ 無 基本理念と活動指針内の活動項目の見直しを実施した。前者は事業実態との整合、後者は環境経営目標及び環境経営計画表との整合を取る。				
	【環境経営目標及び環境経営計画】 変更の必要性 : ☒ 有 ☐ 無 各目標値は2024年度の実績と原料・設備・稼働状況の使用量の変化等を踏まえた項目・目標値に設定・変更する。				
	【実施体制】 変更の必要性 : ☒ 有 ☐ 無 組織図の変更を反映させる				
	【環境経営システム等】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無				
【総括】(環境経営レポートに転記) 当社のEA21環境活動は、組織全体で取組み、RM(リスクマネジメント)計画書への方針施策展開、目標達成に向けた環境安全会議等での進捗管理を実施し有効に機能していると判断する。年度初めの目標値の見直し、原料の順調な処理に起因した原単位悪化もあったが、今年度は概ね目標達成に至った。しかし、目標値に対し、気象条件や操業状況等の反映が不十分であったこともあり、水使用量削減は目標未達が目立つ結果となった。次年度は、これらも考慮した目標設定を進める。また、顧客のニーズに合わせた目標値の設定を行うべきと考え、メタル販売量ではなく金回収量を目標として再設定し活動を継続していく。					

以上